

My Favorite in Harp's song

ハープ 私の1曲

第11回 ハープ奏者 / 講師
川島 憂子

『カラム・スチュワート：
ルッキング・アット・ア・レインボー・
スルー・ア・ダーティ・ウィンドウ』

「鉄は熱いうちに打て」という。確かに何かの才能を伸ばそうとすれば、年齢も早いうちから始めたほうが有利かも知れない。一方で本当のところは、「情熱に勝る能力なし」であり、長い目でみれば、いかに真剣かつ純心な姿勢で事に臨むかが鍵のようである。

川島憂子は、ハープにおける全てのスロースターターたちのお手本かもしれない。彼女は二十歳を過ぎてからハープを始めたのに、プロの演奏家 / 講師に上り詰め、今では作編曲の依頼も絶えないという。もともと2歳からピアノを続けており、ハープがまったく初めての楽器ではなかったのだが、ハープに出会ってからは、自らピアノ断ちを宣言して、まさにハープ一本槍でやってきた。

きっかけは、イギリスへの一人旅だった。彼女にとっては大冒険であった英・スコットランドへの旅の途中、エジンバラでハープに出会う。旅先の心細さもあったのか、浮遊感のある美しい生音は、彼女の心の琴線を掻き乱した。ピアノではなく、ハープ一本で決心するくらいの衝撃だった。でもいざ始めてみると、ピアノなら初見でも簡単に弾ける曲が弾けない。小指は使わないし、運指はピアノとは逆。音数も少ないはずなのに弾けないこのジレンマ。思うに、好きなケルト音楽を一目惚れしたレバーハープで奏でたいという心に素直に従い、積み重ねた努力の結果なのだろう。程なくレバーハープをマスターする。しかし川島の妻は、ここからさらにターボがかかる。今度は、ペダルハープでクラシックを弾く方向へバイアスを傾ける。経験者ならお分かりだろうが、レバーからペダルへの移行は、ご本人がさらっと言うほど簡

単ではない。両者は似て非なる楽器であり、装飾音符を使うなどの表現方法の違い、ペダルの有無、弦幅の違いからの奏法の根本的な感覚に加え、何よりマインドセットが難しい。彼女は、完全にどちらかへ移行するのではなく、むしろ両立を目指したのである。今でも彼女のコンサートでは、レバー、ペダル双方のハープがステージに並ぶことも多い。一見ドラスティックな展開に映る川島のハープ人生だが、ケルト音楽とレバーに恋をして、ペダルに出会いクラシックの深淵を再訪し、今は幼少から培ったピアノを作編曲に活かしている。実は歩みを追うと、傾けてきた努力と夢を、彼女は一つ無駄にしているのだ。

掲題の一曲は、イーリアンパイプ / ローホイッスル / アイリッシュフルートの奏者、カラム・スチュワートから教わった、フォークの調べをまとった軽やかな曲。レイチェル・ヘアのハープ演奏バージョンもある。煤ぼけた窓から臨む虹。たとえ仄かな光であっても、希望と勇気をもって小窓を開け放つと、きっとそこには虹色の明日がある。まるで川島の心象風景の投影でもあり、彼女自身が自ら前向きに歩んできた、ハープにかける半生をそのままリリースしたような曲なのである。



目指せ、「8.2ハープの日」! その2 ザ・ギース高佐のハープ奮闘記



お笑いコント・コンビ「ザ・ギース」の高佐一慈(たかさくにやす)が、今年の夏8月2日ハープの日で、久石譲作曲「Summer」をハープで演奏すると宣言してから、残り2か月となった。邊見美帆子講師のコーチと本人の素養もあってか、順調な上達ぶりという(写真)。しかし、うまい話には裏がある。本誌は、前号でお伝えしたように銀座十字屋が何か企んでいることを掴んでいたが、どうやらその企画が判明した。なんと、予め全国のハープ講師から寄せられた動画を編集したもので、イントロの合奏から開始。盛り上がったところで、高佐さんの本編ライブ演奏が始まるという。単なる演奏だけでは済まず、何気にハードルがさらに上がっているではないか。早速それを告げに行くと、あれっ?高佐さん、目がかなり遠くへ泳いでいますが…。大丈夫かなあ、高佐さんってば!

HARP LIFE

ハープと皆様を繋げる
オンリー・ハープなフリーペーパー

06

2021

Vol.17
Seventeenth
ISSUE

Lyon & Healy Harps
have arrived at the store!

ライオン&
ヒーリーが
やってきた!

独占連載 夢はハープと共に
井上久美子
ライフストーリー③

季節のおすすめハープ
Vol.17
Troubadour VI





ハーブ・ファンには夢の光景

かつて銀座十字屋CEOの倉田恭伸氏は、かねがね「ハーブ専門店として、マルチ・サプライヤーを目指したい」と語っていた。欧米の一般的なハーブ売り場では、当たり前のように各メーカーのハーブが同じフロアに並んでいる。しかし日本では、サルヴィがライオン&ヒーリーハーブスを買収したにも関わらず、販売代理店の特約事項が分散していた歴史があり、銀座十字屋はライオン&ヒーリーのブランドを取り扱えなかった。数ある世界のハーブメーカーでも、サルヴィとライオン&ヒーリーの出荷量・品質・人気は図抜けており、今回世界2大メーカー揃っての取り扱い開始は、まさに銀座十字屋にとっても悲願達成といったところだろう。加えて国産の青山ハーブも展開しているのだから、それらが同じフロアで一堂に会した光景は、ただただ壮観の一言。ファンにとっては、まさにハーブ・パラダイスである。

◀並び立つ世界の名機。サルヴィ・イリスゴールド(左)とライオン&ヒーリー・スタイル23ゴールド。

トップ・ハーブたちに触れる愉悦

店内には、早くもスタイル23やドレイクといった機種が並んでいた。ついつい新しいものに目が行ってしまう性分で、今春デビューとなるレバーの新作ドレイクに見入る。竜のモチーフとかットトン・カラーとか、事前には「それ、どうなの?」と思っていたが、実物で観たマホガニー仕上げは、結構洗練されたシュツとしたいで立ち。カッコいい。いいかも。そして中央に目を移してみると、これだよ、これひょっとして、自分はデジャブーを見ているのか? 心のなかでこの景色を、今までどれだけ想像しただろうか。おお、スタイル23ゴールドとイリス・ゴールドが、覇を競うがごとく並び立っている。これが普通の光景というのが嬉しい。無論従来どおり、気になった機種があれば、スタッフにたずねれば試弾もできる。また、旧来のライオン&ヒーリーハーブのオーナーでも、修理やメンテナンスを引き継げるというので、銀座十字屋のホームページにも注目してほしい。防疫措置で何かと外出し辛い日々が続くが、ぜひパワーアップした店内を訪れてみてほしい。

▼マルチ・サプライヤーのみが許される光景。二大メーカーに加え、左手には青山ハーブ、手前にライオン&ヒーリーのレバーハーブ、ドレイク(左)とオグデンも見える。

Lyon & Healy Harps HAVE ARRIVED AT THE STORE

ライオン&ヒーリーがやってきた!

すでに告知のとおり、4月から銀座十字屋がライオン&ヒーリーハーブスの日本総代理店となることが決定し、銀座十字屋はすでにサルヴィハーブスの日本総代理店でもあることから、同社は名実共に日本を代表するハーブ専門店となったといえるだろう。そこでプレ・オープン的にライオン&ヒーリーのハーブが店頭で並び始めたという噂を聞き、さっそく東京・銀座の銀座十字屋ハーブ&フルートサロンを訪れた。





KUMIKO INOUE

第3章 オランダ留学生活①

A life filled with harps

イスラエルのコンクールの後、これから始まる留学生活を思っ、本当に心細い思いで、恐る恐るオランダに向かいました。しかし驚いたことに、アムステルダムの飛行場にお迎えの車が来ていました。ベルクハウト先生が用意して下さったのです。西も東も分からない私にとって、ものすごくうれしく、ホットしたことを覚えています。



▲アムステルダムの船上にて

クィークホーヴェンにて

ベルクハウト先生はアムステルダム・コンサートヘボウ管弦楽団のソロ・ハーピストを長いこと務めていらして、「国際音楽センター(別名クィークホーヴェン)」と呼ばれる、音楽家のための財団を創られた方でした。そのクィークホーヴェンは、オランダ王室を総裁として、その趣旨に賛同した方がたからの寄付や政府の助成金などで運営されていました。そのために先生は、財政が厳しくなると、寄付を集めるための講演会や演奏会をよ

くなさっていました。

クィークホーヴェンは、オランダでも最も美しいといわれるアムステルダムとユトレヒトの中間の運河沿いにある広大な(およそ10万坪くらい)敷地の中にあります。18世紀に建てられた美しく素敵な館で、そこはまるでお伽話に出てくるような世界でした。ここで3年近くも先生と一緒に過ごせたのは、今思うと夢のよう

です。そのクィークホーヴェンはアムステルダムから1時間、ユトレヒト

から30分くらいで行ける小さな可愛いプロイケレンという村にあります。(この村からアメリカに移住した人たちが作ったのが、今のニューヨークのブルックリンなのだそうです。)

私が住むことになった館には、80人くらいの聴衆を収容でき、素晴らしいお庭を眺めながら音楽会を聴ける美しいホールがあり、そこでは毎週のようにいろいろな楽器の演奏会が開かれていました。こんな小さな田舎の村のホールなのに、フルートのオーレル・ニコレ、指

揮者のジャン・フルネ、ピアノのアリシア・デ・ラローチャ、それにコンサートヘボウのコンサートマスターなど素晴らしい演奏家が訪ねてきて演奏会をしてくださったので、私はお陰様でたくさんの超一流の演奏会を(もちろん無料で)聴けました。そのことも、今の私の財産となっています。

オランダ政府の奨学金!

当時まだ日本は豊かではなく、海外へ外資を500ドル以上持ち出せませんでした。では、どうして3年も留学生活が出来たのか。それは、すべてベルクハウト先生の計らいでした。オランダに到着し初めてのレッスンの後で、私は先生に日本政府の海外渡航の規則についてお話をしました。先生はびっくりな様子、「少し考えさせてね…」と。その10日後くらいに、「久美子、オランダ政府の奨学金が取れましたよ!」。今度は、私がびっくり仰天!それは素晴らしいニュースでした。ちょうどその頃、オランダ政府と日本政府の間で交換留学制度があり、一人まだ枠が空いていて、それを先生がオランダの外務省と交渉して取ってくださったのです。



▲恩師ベルクハウト先生と



▲18世紀に建てられた館。3Fの中央、点灯している部屋に逗留した。外の雪だるまは、井上作品。



▲館の小ホールでの仲間とのスナック



▲教会で演奏する井上久美子

運もよかったのでしょうか、このことを含めて本当に数え切れないほどのことをベルクハウト先生にさせていただきました。先生はスケールの大きな、人間的にもまたといらっしゃらないほどの深みのある、温かな、そして非常に聡明なかたでした。世界中の方々から尊敬を集めていらしたのは当然と、お目にかかってすぐに分かりました。私が大きな助けを最も必要としているときに助けていただきました。人生最高の師であり、大恩人です。このご恩を次の世代にお返しすることがわたしの義務だと思っています。

横浜港を出てからおよそ2か月。体も心も休まる時もなく、いつも緊張の連続でしたので、ベルクハウト先生のもとにたどりついて「ああ、これで安心。先の分からない毎日も終わった。ようやく安眠できるベッドで眠れる」と思ったのが、昨日のこのように思い出されます。

(次号に続く)

●筆者略歴:東京藝術大学大学院在学中にオランダ政府の奨学金を得て留学。以後、世界各国で演奏、コンクールの審査員、指導を行う。現在、世界ハープ協会コーポレーション・メンバー、武蔵野音楽大学特任教授、日本ハープ協会副会長。

Point of
PERFORMANCE

CODA

日本のレバーハープ普及に多大な功績を残された故・雨田光示氏の楽譜が市中にない!? そんな疑問からスタートした、楽譜集の復刻連載企画でした。本号ではほぼ、網羅し尽くしたかと思えます。読んで字のごとく、光示氏はまさにハープの未来を光によって示されました。良い教えに時代は関係ないと、改めて思われた方も多いのではないでしょうか。最終回は、小曲集です。学んだことを存分に活かして、演奏してみましょう。

美しきカテリーヌ

Slowly

Musical score for '美しきカテリーヌ' (Beautiful Catherine) in 3/4 time, marked 'Slowly'. The score consists of five systems of piano accompaniment. The first system includes a 'Fa#' marking. The second system includes a 'Fah' marking. The fourth system includes 'Do#' and 'Sol#' markings. The fifth system includes 'Si#' and 'Sol#' markings.

応用練習

〈丘でおどろう……オーストリア民謡〉

Musical score for '応用練習' (Applied Exercise) in 3/4 time, titled '〈丘でおどろう……オーストリア民謡〉'. The score consists of four systems of piano accompaniment. The first system includes fingering numbers 1, 3, 2, 2, 2, 1. The second system includes fingering numbers 1, 2, 3. The score features various chords and melodic lines in both hands.

こ だ ま

オーストリア民謡

mf

Fine

(Lab)

(Lab)

D.C.

応 用 練 習

〈ダブリン バイ...アイルランド民謡〉

Slowly

mp

左

(3 2 1 2 1)

Harp Life CD Collection

ハープライフ選定 ハープ銘盤コレクション

時を超えて、いつまでも残しておきたい、
ハープの銘盤CDをご紹介してゆく
コーナーです。



Harp Life
GOLD DISC
第7回

「グザヴィエ・ドウ・メストレ / モルダウ〜ロマンティック・ソロ・アルバム」

皇帝と呼ばれて久しいメストレには、正直言って駄作がない。従って彼のアルバムの中から、ベストを絞るのは実に難しい。だが、彼がそもそも皇帝と呼ばれ始めた頃にフラッシュバックすれば、自ずと1枚のアルバムが浮かび上がる。それが、本作である。

ウィーン・フィルの首席ハープ奏者に指名された時点で、メストレは世界の頂点に立った。だがこの時点では、「ハープの貴公子」だった。彼が圧倒的な存在感を発揮するのは、むしろウィーン・フィルを辞してからだ。当時アンドレ・プレヴィン指揮で、ウィーン・フィル史上初のハープ・ソロを披露した。恐らくこころ辺で、彼は運命の時が刻むのを体感し、自らの採るべき命運を知る。公式的に彼は、「ハープはオーケストラの後ろの方で所在なげに座っている楽器ではなく、理論上ピアノが弾けるものは、なんでも弾ける楽器である」ことを証明した一人となった。無論、彼が最初とは言わない。だが世界一のオーケストラの面前で実証したことに意味がある。本作が別格であるのは、彼が天命と共に歩み始め、その所信表明として真っ先に吹き込んだ録音であるからだ。勇躍ウィーンを去り、ソロ＝裸一貫で世に自分の音楽を問うた。失敗すれば笑いものだ。「よせばいいのに」と。凡人ならば、経済的事情も考え、安定を求めてオケに留まるだろう。当時はまだハープ＝ソロ楽器という認識は、少なくとも一般的には希少であった。彼が「ハープという楽器の概念を変えた男」と称されるのも、こうして予め想定されるリスクを背負ってもなお、ハープという楽器の可能性と素晴らしさを満天下に知らしめたからなのだ。

さらにこのアルバムには仕掛けがある。ソロとしての凄みを表すだけでなく、手慣れた自分の好きな曲ばかりを演奏してもよかった。ところが、クラ

シックではご存知のように、クセが強いとされるロシアからボヘミアを俯瞰した“東欧名曲集”という仕立てを取って施した。スメタナを皮切りにプロコフィエフ、チャイコフスキー、ハチャトゥリアン、ドヴォルザーク、グリンカなど、さすがに胸焼けしそうなラインアップだ。隠された意図は、2つある。彼らの曲は、演奏するにはかなり高度なテクニックがいる。だからひけらかさなくても、メストレは技を駆使せざるを得ず、自らを追い込むことになり、演奏にも気合が入る。次に、喰わず嫌いに対して「ロマンティックな」という修辞に見合うよう、美味しいといって食べさせなければならない。つまり、編曲である。このアルバムの妙味は、実はハープリストとしてのもうひとつの宿命である編曲の道標を示したことにある。そう、ハープリストは常に譜面を探している。メストレは、「こういう曲もハープで弾ける」ということを、自ら選曲し、それを編曲することで証明するという境地に至った。ハープらしく、美しく明快で、親しみ易いアレンジ。ハープを愛でることが誇らしくなるような調べ。そんな要素をシーンへもたらせば、今日の「皇帝」との呼称もけっして誇張ではないだろう。

お買い
求めは、
こちらから!



季節の おすすめハープ

Vol.17

季節ごとに、毎号1台ずつ
銀座十字屋がおすすめする、素敵なサルヴィ、
ライオン&ヒーリーのハープ。
今回は「トルバドールVI」です。



累計で世界的
ベストセラーとして
トップに君臨。

風雪に耐えてきた楽器というのは、基本となる性能だけではなく、デザインや価格といった様々な要素の平均点が一律に高いように思えます。いや、長い年月の間に、欠点を補強したり、さらなる改良を施したりすることで、ファンの期待に連綿と応えてきた結果なのかもしれません。

ご紹介するハープは、ライオン&ヒーリーのトルバドールVIです。この楽器の特筆すべきことは、何といてもレバーハープの中では、累計で世界的ベストセラーとしてトップに君臨していることです。名前に冠されているように、同モデルの6番目のバージョンということですから、1960年代にお披露目して以来、モデル・チェンジやマイナー・チェンジを繰り返しながら、シーンの発展に貢献してきたハープと言えるかと思います。36弦で5オクターブちょうど音域、同社ペダルハープと同じ弦の間隔と張力。真鍮製の鳩目とメイプルとシトカスプルスから成る響板は、クリアでとても豊かなサウンドを提供します。また、ペダルと同じ張力で同じ弦を使用したコンサート・テンションのモデルで、けっして持ち運びに便利とは断言できませんが、大きな響板だからその安定したビッグ・サウンドなのであり、ステージに立つプロやペダルハープの併用者／移行者にも実に有効な1台と言えます。一世風靡したレバーハープなので、完成された楽器と言えるでしょう。つまり、初心者・経験豊かなハープリスト双方にとって、幸せなハープなのです。

またその楽器が名器である傍証としては、後に多くの派生形モデル(エピゴネン)をシーンへ輩出しているというも大きなポイントになりますが、ふとあのサルヴィの人気モデル「タイタン」も、このトルバドールにかなり寄せて出来たのではないかと睨んだのですが、いかがでしょうか。

Troubadour VI

トルバドールVI